

# 第 27 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 4. 14 熊山 ともみ

参天製薬(株)

緑内障・高眼圧症治療剤

『タプロコム配合点眼液』

参天製薬(株) 小俣 範之さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：原田由美子先生 眼科職員さん、空田さやか、藤澤まどか、熊山ともみ

眼圧の高い状態が続くと、視神経の損傷が起こることで視野の欠損、失明に至る。眼圧を下げるために、房水産生抑制、房水流出促進を目的としたさまざまな機序の薬剤が発売されている。タプロコムは日本で3番目に発売された配合点眼剤であり、プロスタグランジン関連薬と非選択性 $\beta$ 遮断薬に分類される。

<効能又は効果>

緑内障、高眼圧症

原則として、単剤での治療を優先すること

<用法及び用量>

1回1滴、1日1回点眼する。

<禁忌>

1. 気管支喘息、又はその既往歴のある患者、気管支痙攣、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者 [ $\beta$ -受容体遮断による気管支平滑筋収縮作用により、喘息発作の誘発・増悪がみられるおそれがある。]
2. コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック (II、III度)、心原性ショックのある患者 [ $\beta$ -受容体遮断による陰性変時・変力作用により、これらの症状を増悪させるおそれがある。]
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

<副作用>

国内臨床379例中、94例 (24. 8%)。主な副作用は、睫毛の異常35件 (9. 2%)、結膜充血32件 (8. 4%)、目瞼色素沈着9件 (2. 4%) 等であった。

<特徴>

- ・PG製剤のタプロス (1日1回) と $\beta$ 遮断薬チモプトール (1日2回) の配合剤である。2剤を使うため1日3回の点眼のタイミングが、配合剤により1日1回で済む。

#### <考察>

眼圧を下げるためには、各剤間最低でも5分の間隔をあげ、しっかりと眼へ薬剤を吸収させる必要があり、何種類もの点眼薬を使用する場合、点眼に時間を費やしてしまうことが考えられる。2種類の異なる作用の薬剤が1剤になっていることにより、手間がはぶけ、コンプライアンスの向上につながると言える。しかし、配合剤について2種類の点眼を使用した場合と、比較し効果が薄れるといった懸念も挙げられている。本数が多いと点眼間隔が不十分であったり、点眼自体を忘れてしまうといった患者さんには、配合剤が勧められる。患者さんの点眼状況をふまえ、点眼薬の有用性、効果的に使用する点眼方法をしっかりと示していきたい。

また、涙嚢部の圧迫、閉瞼はP G製剤からくる副作用として色素沈着、睫毛の異常等、 $\beta$ 遮断からくる心機能障害などを防止するためだけでなく、薬剤の効果に対しても有効とのことで、改めて投薬時に確認していきたいと考える。

#### <質問>

・点眼のタイミングはいつでも可能か？

→朝でも、夜でも1日を通して効果を保つので点眼可能。

・1日1回タイプのカモプトールX Eを配合剤にしなかった理由は？

→カモプトールX Eは製剤工夫で眼への滞留時間を保つよう粘度が高くなっている。P G製剤は眼への刺激が強いため、眼内への吸収を早めた方がS Eの発生率が下がる為、カモプトール（1日2回タイプ）の方が合剤として適していた。